

鎌倉投信 結いだより

2010年4月1日発行
創刊号



縁側には優しい日が差し込み 座布団を敷いて座ると ゆったりとした時間が流れていく・・・

自然を感じながら 人が集い 夢を語り合う場所をつくろう！

Pick up



今月の人
さかもと こうじ
坂本光司先生

『日本でいちばん大切にしたい会社』の著者。法政大学院教授・サテライトキャンパス長。NPO理事長のほか、国県市町商工会議所団体の審議会や委員会委員を多数兼務。

●閉ざされた空間

2008年のとある残暑の厳しい日。候補地の一つとして現在の社屋（その時は、ほほ廢屋のような古家）に視察へ。ゆったりと曲がる小道のその奥に平屋建ての家があり、左には日本庭園（だつたであろう茂み）にながる竹垣の門。門をくぐり庭に出ると、由緒正しそうな木々が生えています。ただその下には、腰の高さまで伸びた雑草たちが

改装後の鎌倉投信本社屋玄関前。築80年の古民家を改修し、集いの場として再生。いにしえの時代から育まれた季節の草木たちに包まれ、静寂の中に佇む庵です。

第二章 ～住んでいたのは小動物たち～

会社の理念の「文化や自然を大切にする」を具体的に実行するため、古民家を再生し会社の社屋として使用するというアイデアが生まれました。古民家と聞いて思い浮かぶのは・・・田舎の旧家。襖を開け放つと解放感のある大きな和室があり、上を見上げると黒光りしている太い梁がある。縁側には優しい日が差し込み、座布団を敷いて座れば、ゆったりとした時間が流れています。そんな家です。私たちは現在、手探り奮闘しながら、そんな社屋づくりに挑戦中です。

特集・・・古民家再生物語

庭を埋め尽くしています。長い間別荘として使われていたそうですが、普段は雨戸が閉めっぱなしだったとのこと、不動産の方が、中からバタバタと雨戸をあけ続けています。家屋の中に入るとジメジメ湿っぽい感じがし、床も所々ブカブカとし、壁の一部に崩れも見られます。修繕にかけられる予算が限られているので、人が集う場所に生まれ変わらせることができるのか：不安に。でも、祖母の家のような雰囲気が漂い、懐かしく親近感が湧いてきました。部屋数も5部屋と広く、欄干などは、現代では造作出来ないような細かな作りをしていました。年も押し迫った頃、私たちはこの築80年の物件を再生することを決心しました。

●再生計画開始

5部屋ある和室のうち、奥2部屋を事務所スペース、手前3部屋をお客様用スペースとすることに。建築士の方とイメージや注意点（金融機関なのでセキュリティ等）の確認を行います。後日、建築士と工務店の方の顔合わせ及び現地確認が行われると…床が傷んでしまった場所、シロアリに食べられてしまつた柱、雨漏りの痕跡など、屋根や天井の修理が必要な問題個所が次々とが見つかっていきます。あまりお金がかけられないで、段々と不安。出来るだけ予算を安く見積もつてもらつたことと、優先順位の低いものは削ることで、何とか予算ぎりぎりに収めることができました。



フワフワ、ブカブカと浮き沈みする床は、板をはがして修繕。柱の一部は、シロアリに食べられていることも発覚。限られた予算の中で、人が集まる場所になるか心配に。

全体の調和やバランスは遠くから
屋根職人のまなざし

匠の技

「近づき過ぎると調和やバランスはわからない」
古民家の瓦屋根を修繕してくれた
瓦職人の匠が残してくれた格言。

- 一、自分の住まいと思って仕事をする
- 一、仕事の大小で濃淡をつけない
- 一、急がず粘り強くこつこつと進める
- 一、土台を大切にする
- 一、時として遠くから眺める



鎌倉投信株式会社
代表取締役社長 鎌田 恭幸

ごあいさつ

人と人のご縁が拡がる
投信づくりを目指します

3月29日『結い2101』は、口座を「開設いただいた255名の方々の想いを乗せて運用を開始いたしました。鎌倉投信の理念に共感いただいた皆さま、本当にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

「遠くをはかる者は富み 近くをはかる者は貧す」今、生涯で六百もの町村の財政を立て直しをした、篤農二宮尊徳の言葉をかみしめています。目先の利益を追うのではなく、これから社会にほんとうに必要な価値を創造し蓄えていくことで、利益の分配を得る——皆さまと共にこうした投資本来の姿を探しながら、私たち鎌倉投信は、人と人の縁が拡がる投信づくりを目指します。

屋根に乗せられた瓦。全体の調和やバランスは、近くからではわかりません。屋根を降り、遠くから眺めることで、見えないものが見えてくるのです。経験はうそをつきません。100年持つ瓦屋根に、新たな息吹を与えてくれたこの職人さんは、今日もどこかで・・・遠くの屋根を眺めていることでしょう。



第1回

『人』をテーマにお届けするコミュニティ・フォーラム

『人』をほんとうに幸せにする会社、その神髄に迫る

～なぜこの会社は『人』を幸せにし、社会から愛されるのか～

ご参加の方から、「とてもいいきっかけになった時間でした」という感想をいただいた講演の様子を報告します。



今月の人
さかもとこうじ
坂本光司先生

●日本でいちばん大切にしたい会社

昨年11月、「日本でいちばん大切にしたい会社」の著者、坂本光司先生(法政大学大学院教授、コラム“今月の人”をご参照ください。)をお招きしてシンポジウムを開催しました。

混沌とした先の読めない時代だからこそ、私たちが大切にしなくてはならないものは何かを考える機会にしたいと思い「人」をテーマに開催。今おかけられた状況と、本来あるべき自分とのギャップに悩み苦しんでいる方、より良い社会を作りたいとエネルギー的に活動している方々が、何かを求めて鎌倉に集まりました。150名ほど入る商工会議所ホールは熱気にあふれ、立ち見が出るほどの盛況ぶりでした。

●プログラム1：講演

当社社長の鎌田による『企業は何のために存在するか～企業と社員、投資家と企業との関係を考える～』の講演。

鎌田:…資本主義の枠組みが大きく変わろうとする中、企業は以前にも増して差異性、違いを鮮明に出さなくてはならなくなりました。その差異性をつくるのが「人」であり、「人」のモチベーションを高めることこそが企業の持続的発展のドライバーになっています。そして、そうした企業の発展を側面から支えるのが価値観や信頼をベースにしたお金の循環です。…

●プログラム2：基調講演

坂本先生による『『人』をほんとうに幸せにする会社、その神髄に迫る～なぜこの会社は『人』を幸せにし、こんなにも社会から愛されるのか～』の講演。

障害者の雇用に前向きに取り組みつつも、立派に利益成長している会社の感動的な事例をご紹介いただきました。先生のお話は、いつ聞いても心に沁みります。感動し、思わず涙を流す方も…。

先生は常々、会社経営とは「五人(社員とその家族、外注先・下請企業、顧客、地域社会、株主)に対する使命と責任」を果たすための活動であると定義づけ、その中でも会社が果たすべき使命の第一は、社員とその家族を幸せにすることである、と一貫して訴え続けておられます。「社員自身が感動しないのにどうして顧客に感動を与えることができるのか?」「市場を創造するのは現場に立つ社員一人ひとりである。」6300もの会社を実際に見

て、社員第一主義を掲げ、下請企業を大切にする会社の業績は良いという真実。この真理と実証に裏付けられた言葉には、淀みのない信念がみなぎっていました。

●プログラム3、4：トークセッション&質疑応答

終始和やかな雰囲気で行われたトークセッションと質疑応答。参加者からは、「投資のイメージが変わりました。20歳前後の学生に話す機会があるのでぜひ伝えたいと思います」「目から鱗が落ちました。自分も会社を経営していますが、100年続く会社を目指し、使命を持って頑張ります」といった感想があり、嬉しくなりました。とても励みになるお言葉です。これからも、「人」「共生」「匠」をテーマにしたシンポジウムを開催したいと思います。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。



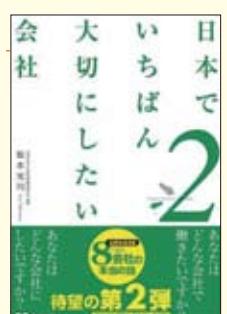
2009年11月8日(日)／鎌倉市商工会議所 ホール 定員150名で行われたセミナー。ホール定員をオーバーし、立ち見の方も。会場のいたるところからすり泣きが聞こえ、熱気と感動の涙につつまれた時間。

My Culture

いい会社は、
まだたくさんある！

[日本でいちばん大切にしたい会社2]

33万部を超えるベストセラーとなった「日本でいちばん大切にしたい会社」の第2弾。6,300社のフィールドワークで見出された、「日本一」価値ある企業とは？ 坂本光司著。2010／1／21発売。単行本(ソフト)254P:あさ出版。





雪ノ下の古民家



2010年2月撮影。雪の積もった鎌倉投信本社屋。いつも以上に静寂や、新鮮な空気を感じられた、冬の終わりの1日でした。

鶴岡八幡の東側に位置するこの地域には、かつて雪の貯蔵庫があったからと、地名の由来が言い伝えられています。

春は、木々や草花がいっせいに花を咲かせ、やさしい香りを漂わせる時期。鎌倉詣でを兼ねて、ぜひ雪ノ下へ遊びにお越し下さい。

静かで緑が多く、自然が美しい「雪ノ下」。木々の静寂に包まれ、鳥のさえずりが響き渡るその場所に、鎌倉投信の本社屋があります。

冬のとある日。目下に流れる滑川を眺めたら、そこには山田さんが。「何をしているんですか?」と訊ねたら、「水音を聴きながら、鯉とたわむれているんです。」と、真顔で答えてくれました。なんともロマンチスト。以前は公園管理の仕事もされていたそうです。自然を愛する気持ちは、人一倍。「落ち葉や花びらだけが流れる川にしたいから」と、日々冷たい川の中を、笑顔で歩いています。

冬のとある日。目下に流れる滑川を眺めたら、そこには山田さんが。「何をしているんですか?」と訊ねたら、「水音を聴きながら、鯉とたわむれているんです。」と、真顔で答えてくれました。なんともロマンチスト。以前は公園管理の仕事もされていたそうです。自然を愛する

気持ちは、人一倍。「落ち葉や花

びらだけが流れる川にしたいか

ら」と、日々冷たい川の中を、笑

顔で歩いています。

・鎌倉ある記

鎌倉投信
『結いだより』創刊

私たちが目指す100年後の豊かな鎌倉～由比ガ浜の景色が描かれたもの。自然と人工物が融合した景色。鎌倉投信ホームページトップにも登場している画。

本誌タイトルには、鎌倉投信の投資信託『結い2101』と同じく、人と人、世代と世代を「結ぶ」豊かな社会を、皆さまと共に創造したいという想いがこめられています。

「結い」とは、人々が助け合い、共同で作業を行うことや、その思想を示す言葉です。鎌倉「由比ガ浜」の地名も、「結い」に由来しています。

皆で協力し合つて投げ網をしていた古き時代に、自然とそう呼ばれるようになったのでしょうか。結い…由比。世代を超えて、いつまでも紡ぎ続けたい言葉です。

今月の山田君



川掃除中の山田さん。右手に火バサミ、左手にゴミ袋を2つ持ち、捨いながらの分別。やはり、空き缶やプラスチックなどの不燃物が多いそう。少し前の大雨で増水し、木の枝にもビニール袋がひっかかっていました。

運用報告

『結い 2101』3月29日運用スタート！ 第2号より運用報告をお届けいたします。

<資産運用に関する注意事項>

本誌は、鎌倉投信によって作成された投資家向けの情報です。投資信託のお申し込みに際しては、以下の点をご理解いただき、投資の判断は、お客様ご自身の責任においてなさいますようお願い申し上げます。

- ・投資信託は預金または保険契約ではないため、預金保険および保険契約者保護機構の保護対象にはなりません。また、「結い 2101」は、投資者保護基金の対象ではありません。
- ・投資信託は、金融機関の預貯金と異なり、元本および利息の保証はありません。
- ・本誌記載の情報は、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。また、いずれも将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。
- ・当誌記載の内容は、将来の運用結果等を保証もしくは示唆するものではありません。また、本資料は、弊社が信用に足ると判断した情報・データに基づき作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
- ・本資料の使用権は、弊社に帰属します。
- ・「結い 2101」の投資信託説明書(交付目論見書)については、鎌倉投信までお問い合わせください。
- ・「結い 2101」をご購入の際は、契約締結前交付書面および金融商品の販売等に関する法律に基づく重要事項の説明等の重要事項説明書をあらかじめ、または同時に渡しますので、必ずお受け取りの上、内容をよくお読みください。

鎌倉投信株式会社：金融商品取引業者 登録番号 関東財務局長(金商)第2293号
加入協会：社団法人 投資信託協会